

平成25年度第2回野菜需給・価格情報委員会の概要

1 日時

平成25年11月6日（水）13：30～15：30

2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

3 概要

「平成25年産夏秋野菜の需給・価格の実績」（資料1）の説明の後、秋冬野菜の需給・価格の見通しについて、10月29日開催の消費分科会で出された意見等を踏まえ意見交換。その概要を藤島座長が取りまとめ、各委員に了承を得た上で、11月12日開催の平成25年度第2回野菜需給協議会に報告することとなった。

秋冬野菜の需給・価格の見通しに関する各委員からの意見は以下のとおり。

（1）冬キャベツ（11～3月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、千葉及び愛知は前年並み、神奈川は来年3月出荷分の作付を推進しているため、前年よりやや増加する見込み。
- ・ 生育状況は、台風26号等の影響で一部みられたが、概ね平年並み。愛知は台風により一部の地区で定植直後の苗が強風の影響で根切りがみられた。
- ・ 出荷量は、11月は好天により大玉傾向で出荷が多かった前年を下回り、12月から2月は前年並みとなり、3月は遅れていた出荷分と通常の出荷分が重なり出荷量が多かった前年を下回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 価格は、台風の影響による冠水等で出荷量が減少するため、11月は安値であった前年を上回り、12月から2月は前年並みとなり、3月は安値であった前年を上回る見込み。
- ・ 加工・業務用においては、九州の主要産地で病害等の発生により出荷が少ないことが一部で見られることから、今後は卸売市場からの調達の動きなども想定され、卸売市場の価格にも影響する可能性がある。また、近年、年明けの価格が高値となっているため、すでに中国産を確保する事業者もみられる。

（2）秋冬だいこん（10～3月）

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、千葉、神奈川及び徳島は、前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、千葉は、台風26号の影響により、特に年始以降の露地物の出荷量が減少する見込み。神奈川は、概ね平年並み。徳島は、概ね順調な生育・出荷となる見込み。
- ・ 出荷量は、11月は前年並みとなり、12月は前年を上回り、1月及び2月は前年並みとなり、3月は前年を下回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 価格は、台風の影響が少なく、11月は前年並みの出荷量となるものの、安値であった前年を上回る見込み。年末年始は、前年の12月及び1月が高かったことから、前年を下回り、3月は生育が回復し出荷量が多く、安値であった前年を上回る見込み。

(3) たまねぎ (11～4月)

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、今後の供給の主力である北海道産が、融雪遅れと降雨等による定植の遅れ、肥大期の高温と干ばつ、生育期間の短縮により作柄が悪く、小玉傾向となった。9月末に収穫作業が終了し、今後は貯蔵物の出荷となる。
- ・ 出荷量は、11月から4月までの期間を通じ前年を下回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 加工・業務用においては、国内産の作柄が悪く小玉傾向であるため、中国や米国からの輸入が増加する見込み。
- ・ 価格は、北海道産が小玉傾向であり、出荷量が減少するため、安値であった前年を上回る見込み。

(4) 冬にんじん (11～3月)

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、千葉は前年並み、愛知は前年をわずかに下回り、長崎は前年をやや上回る見込み。
- ・ 生育状況は、千葉及び長崎は、播種後の少雨、干ばつ等の影響があり、やや遅れが見られ、愛知は、順調な生育となる見込み。
- ・ 出荷量は、台風の影響から主産地の正品率が低いこともあり、11月から3月までの期間を通じ前年を下回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 外食事業者からの需要が少ない中で、中国産の品質、規格が良いことから輸入品に一定の需要があり、国内の価格への影響は少ないことが見込まれる。
- ・ 価格は、生育の遅れ、台風による冠水の影響等があり、出荷量が減少するため、11月は安値であった前年を上回り、12月以降は、平年より高かった前年並みとなる見込み。

(5) 秋冬はくさい (10～3月)

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、茨城及び兵庫は前年並み、愛知は前年をやや下回る見込み。
- ・ 生育状況は、茨城及び愛知は、台風の影響に伴う冠水等により生育の遅れや病気、根傷みが発生している。兵庫は、定植が順調であった。
- ・ 出荷量は、11月は台風の影響もあり前年を下回り、12月から3月までは前年並みとなる見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 漬物においては、2012年夏の白菜浅漬による腸管出血性大腸菌O157の食中毒等により減少していた需要が回復傾向となっている。
- ・ 価格は、11月は生育の遅れによる小玉傾向や病害等の発生により出荷量が減少するため、安値であった前年を上回り、12月から2月は高値であった前年並みとなり、3月は兵庫の生育が順調と見込まれるため、前年並みとなる見込み。

(6) 冬レタス (11～3月)

① 供給見通し

- ・ 作付面積は、茨城及び兵庫は前年をやや下回り、静岡及び香川は前年並みの見込み。
- ・ 生育状況は、茨城は、台風の影響に伴う外葉の痛み等により小玉傾向となっている

が、今後は品質が改善されていく見込み。静岡は順調な生育となっている。

- ・ 兵庫は年内出荷分は順調な生育となっているが、年明け出荷分は、降雨の影響により定植がやや遅れている。香川は台風、降雨により、定植が遅れている。
- ・ 出荷量は、11月は台風の影響から前年を下回り、12月から2月は低温で出荷が少なかった前年を上回り、3月は茨城産が生育良好で出荷が多かった前年を下回る見込み。

② 需要・価格見通し

- ・ 加工・業務用においては、茨城が小玉傾向等となっており、通常の歩留まりが確保できないため、台湾からの輸入物への需要が強くなっている。
- ・ また、外食においては結球レタスから非結球レタスのサニーレタスやグリーンレタスへの需要の変化が一部みられる。
- ・ 価格は、11月は主産地である茨城で小玉傾向等となり出荷量が少ないため、高値であった前年並みとなり、12月及び1月は主産地である静岡等の生育が順調であるため、高騰した前年を下回り、3月は安値であった前年を上回る見込み。